

科目ナンバリング		U-LAS30 20023 LJ13					
授業科目名 <英訳>	イノベーションと情報 Innovation and Informatics			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 特定教授 前川 佳一		
群	情報学科目群		分野(分類) (各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態 講義
開講年度・ 開講期	2020・前期	曜時限	木5		配当学年	全回生	対象学生 全学向
【授業の概要・目的】							
研究や技術開発を含むイノベーションに関する理論を、情報活用につながるよう体系的に概観する。したがって受講者は文系・理系を問わず、また製造業志望・非製造業志望も問わない。							
【到達目標】							
主として企業で行われるイノベーションを、経営学や情報のコンテキストで整理し、体系化したものとして理解する。 履修生は、技術系であろうと非技術系であろうと、また製造業志望であろうと非製造業志望であろうと、経営学の基本的な概念や用語についての理解を得る。さらには、履修生それぞれにとってのイノベーションや価値創造の背景や論理の礎を築くことを目標とする。							
【授業計画と内容】							
各回のテーマやトピックスは、イノベーションや価値創造の背景や論理が理解できるよう、また、経営学の諸理論と技術開発との関連がよく理解できるよう選択してある。たとえば、							
<ul style="list-style-type: none"> ・中央研究所の意義、 ・「研究」・「開発」分類、 ・製品アーキテクチャ論、 ・マーケティングと技術開発、 ・ナレッジマネジメントと技術開発、 ・戦略論と技術開発、 ・経営組織と技術開発、 ・日本型経営と日本人論、 ・技術者の倫理、 							
<p>などなど。</p> <p>受講者には、2回目以降、毎回、配布資料を読んで授業にのぞみ、積極的に発言することが期待される。</p>							
<p>イントロダクション (第1回)</p> <p>・イノベーションとは ・経営とは ・自然科学と社会科学</p> <p>パラダイム～科学の構造 (第2回)</p> <p>・『科学革命の構造』 ・『科学的発見の論理』</p> <p>中央研究所の成立と今後 (第3回)</p> <p>・『中央研究所の時代の終焉』 ・コーポレートR&DとディビジョンR&D</p> <p>・OECDによる定義 ・セレンディピティー ・リニアモデルと連鎖モデル</p> <p>「オープンイノベーション」 (第4回)</p> <p>・オープンイノベーションとクローズドイノベーション</p> <p>「パズル理論」 (第5回)</p> <p>・技術者と事務系社員の技術観の相違</p> <p>・技術への投資の意思決定の実際</p> <p>「イノベーションのジレンマ」 (第6回)</p>							
----- イノベーションと情報(2)へ続く ↓ ↓ ↓							

イノベーションと情報(2)

- ・『イノベーションのジレンマ: 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』
マーケティングと技術開発 (第7回)
 - ・「マーケティング近視眼」
- ・STP (Strategy/Target/Positioning) マーケティング
ナレッジマネジメントと技術開発 (第8回)
 - ・知の伝達の成否・コンカレントエンジニアリング
- 中間まとめと演習 (第9回)
- 経営戦略論と情報応用 (第10回)
 - ・経営戦略とは ・合理性、非合理性、愚直、
 - ・技術者の評価とモチベーション、デュアルラダー
- 経営組織と技術開発 (第11回)
 - ・技術人材マネジメント ・技術者評価とモチベーション ・デュアルラダー
- 経営組織と日本型経営 (第12回)
 - ・「組織能力と製品アーキテクチャ」
 - ・技術担当者のメンタリティ ・西洋との対比
- デジタル技術とテクノヘゲモニー (第13回)
 - ・『テクノヘゲモニー - 国は技術で興り、滅びる』
- まとめ (技術者の倫理観 / Q&A) (第14回)
 - ・科学における不正行為
 - ・Q&A
- フィードバック (第15回)

【履修要件】

学部生向けですが、大学院生も受講は可能です。

【成績評価の方法・観点】

【成績評価の方法・基準】 下記の順に考慮して決定する予定。
ただし、授業の2/3以上に出席しなければ、単位付与の対象外となる。

- | | |
|-------------------------|-------|
| ① 前半終りの演習 (小テスト形式) | 30%程度 |
| ② 期末レポート | 30%程度 |
| ③ 授業への貢献 (議論への積極的参加・発言) | 40%程度 |

【教科書】

前川佳一 『パズル理論』 (白桃書房) ISBN:978-4561266136

その他授業で用いるものは、適宜配布する。

下記「参考文献」参照。

【参考書等】

(参考書)

一橋大学イノベーション研究センター 『イノベーション・マネジメント入門』 (日本経済新聞社)
ISBN:978-4532132231

クレイトン・クリステンセン 『イノベーションのジレンマ: 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』 (翔泳社) ISBN:978-4798100234

【授業外学修 (予習・復習) 等】

2週目以降、次の週までの課題として文献や記事などを配布し、かつそれに伴う考察テーマを示す。
受講者は課題を熟読し、テーマに沿って自分の考えを整理して授業に臨むこと。この姿勢がなければ、学習効果は半減する。

イノベーションと情報(3)へ続く↓↓↓

イノベーションと情報(3)

【その他（オフィスアワー等）】

開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールによるアポイントを経ることとする。

科目ナンバリング		U-LAS30 10009 LJ11 U-LAS30 10009 LJ12 U-LAS30 10009 LJ10					
授業科目名 <英訳>	情報基礎 [全学向] Basic Informatics (General)			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 田島 敬史 情報学研究科 特定准教授 杉山 一成 情報学研究科 特定准教授 佐藤 寛之		
群	情報学科目群	分野(分類) (基礎)			使用言語	日本語	
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2020・前期	曜時限	木5	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
<p>情報とは何か、情報の処理や計算とはどのようなものかについて、情報の評価、情報の表現、情報の伝達、情報の検索などの様々な側面から学ぶ。また、現在のコンピュータ、情報ネットワーク、様々な情報システムなどがどのような仕組みで動いているのかについても取り上げる。</p>							
【到達目標】							
<p>情報とは何か、情報の処理や計算とはどのようなものかについて考えることにより、情報という観点からの問題の捉え方や思考方法を身につけることを目指す。また、現在のコンピュータ、情報システム、情報ネットワークはどのような仕組みで動いているのか、代表的な情報処理手法にはどのようなものがあるかなどについて学ぶことにより、現代情報化社会における知的活動および一般生活において必要となる情報利活用能力の基礎となる知識を身につける。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>以下のような内容について授業を行う予定である。</p> <p>01 情報とは何か：主観確率、ベイズの定理（田島） 02 情報の評価：情報量（杉山） 03 コンピュータのための情報の表現：アナログとデジタル、誤り訂正符号、情報圧縮、暗号、ブロックチェーン、量子コンピューティング（杉山） 04 人間のための情報の表現：情報可視化、統計データの扱い、情報の信憑性、ユーザインタフェースのデザイン（田島） 05 情報のデータ化：データモデル、データ構造、関係、グラフ（田島） 06 計算とは何か：計算可能性、計算不可能な問題（佐藤） 07 計算手順とその評価：アルゴリズムと計算量（佐藤） 08 計算手順の表現：プログラミング、最適化問題（佐藤） 09 複数処理の実行：並列処理、同期、スケジューリング、OSの役割（田島） 10 複数主体による処理：分散処理、インターネットの仕組み（杉山） 11 計算と知能：人工知能、機械学習（杉山） 12 計算と科学：自然科学・人文社会科学におけるコンピュータ利用、およびデータサイエンス（杉山） 13 情報と社会：情報通信技術の発展と情報化社会で必要とされる権利や倫理（杉山） 14 情報に基づく意思決定：ゲーム理論の基礎（田島） 15 フィードバック（田島・杉山・佐藤）</p>							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点】							
<p>通常の授業中に行う小テストの結果に基づいて評価を行う。本講義で学ぶ「情報とその処理とはどのようなものか」「コンピュータや通信ネットワークはどのような仕組みで動いているか」などの</p> <p style="text-align: right;">情報基礎 [全学向] (2)へ続く ↓↓↓</p>							

情報基礎 [全学向] (2)

知識について、各所の要点、および、それらの間の関係の全体像を、自分の言葉で説明でき、かつ、他の分野に応用できる程度に体得できているかを評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業資料や演習問題の解説資料などを用いて、毎授業ごとに復習を行うこと。また、事前に授業資料が配布されるなどにより、授業内容が事前にわかっている回については、取り上げられる概念などについて各自で調べて予習を行うこと。

【その他（オフィスアワー等）】

オフィスアワーはメールによる事前予約のこと。メールアドレスは以下の通り（「@」を「@」に置き換えること）：

田島：tajima@i.kyoto-u.ac.jp

杉山：kaz.sugiyama@i.kyoto-u.ac.jp

佐藤：hsato@amp.i.kyoto-u.ac.jp

科目ナンバリング		U-LAS30 10017 SJ11					
授業科目名 <英訳>	情報基礎実践 Informatics Fundamentals & Practice			担当者所属 職名・氏名	情報学研究科 特定教授 川上 浩司		
群	情報学科目群		分野(分類) (基礎)		使用言語	日本語	
旧群	B群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態 演習
開講年度・ 開講期	2020・前期	曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生 全学向
【授業の概要・目的】							
<p>どの分野においても、情報を人に伝わるように「表現」したり、情報を理解するために「処理」を行ったり、新たな情報を得るために「検索」したり、情報を利用可能な形で「管理」したり、情報から知識を得るために「分析」したりすることは重要である。本講義では、これら情報を扱うために必要な知識・技術を実践することにより習得することを目的とする。講義の形態としては、短い講義の後、コンピュータを利用した演習を行う。ソフトウェアに依存しない基本的な考え方に焦点を当てることで、長期に渡って、分野に依存せず利用できる情報の基礎を学ぶ場を提供する。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・情報をコンピュータ上で表現する方法について理解し、ある目的に対して適切な表現方法を選ぶことができるようになる ・文書や画像、数値データなどをコンピュータ上で編集・保存・分析する方法を理解し、ある目的に応じて異なる方法を使い分けられるようになる 							
【授業計画と内容】							
<p>文書作成【1回】： WordおよびTex(文書作成ソフトウェア)を利用し文書作成の基礎と論理構造を意識した文書作成方法の演習を行う。</p> <p>Web文書作成【1回】： HTML文書の作成を行い、マークアップ言語や文書の論理構造について学ぶ。</p> <p>クラウドサービスの利用【1回】： Web上でオフィス文書を作成・共有できるサービスを利用し、Webやクラウドコンピューティングの仕組みを学ぶ。</p> <p>情報の表現【1回】： プレゼンテーションスライド・図表の作成を行い、情報を人に伝える方法について学ぶ。</p> <p>データの集約【1回】： Excelにてデータを集約する演習を行い、表計算の基礎およびデータの可視化について学ぶ。</p> <p>データの分析【2回】： Excelにて回帰・検定を行うことで、統計的手法について学ぶ。</p> <p>メディア情報の処理【2回】： テキスト情報や画像情報を処理する方法について学ぶ。</p> <p>情報探索【1回】： 検索エンジンを利用して必要な情報を収集する方法、および、検索エンジンの仕組みについて学ぶ。</p> <p>データベースの検索【1回】： データベースに対する問い合わせを行うことで、データベースの検索・Web情報システムの基礎について学ぶ。</p> <p>データマイニング【3回】： R(統計解析向けのプログラミング言語)を利用してデータマイニングを行う。大量のデータから有益な情報を発見する方法について学ぶ。</p>							
----- 情報基礎実践(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----							

情報基礎実践(2)

フィードバック【1回】

【履修要件】

全学共通科目「情報基礎」を併せて履修することが望ましい。ただし、必須ではない。

【成績評価の方法・観点】

演習中に課す課題の提出状況および演習への積極的な参加状況により評価する。課題は、授業内容に基づいた必須課題（70点）と、自発的な学習を必要とする発展課題（30点）から構成される。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内で学習したことを実践するために課題が設定される。

授業時間内にも課題を行う時間を設けるが、それに加えて、授業外時間にも発展的な課題に取り組むことが期待される。

【その他（オフィスアワー等）】

オフィスアワーは特に設定しない。質疑はメールにて随時受け付ける。

川上 浩司: kawakami@i.kyoto-u.ac.jp

科目ナンバリング		U-LAS30 20024 LJ13						
授業科目名 <英訳>	情報と知財入門 Introduction to Information and Intellectual Property			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 田島 敬史 非常勤講師 谷川 英和 非常勤講師 宮脇 正晴			
群	情報学科目群		分野(分類) (各論)		使用言語	日本語		
旧群	A群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2020・後期	曜時限	木5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】								
情報に関わる著作権、特許、知財管理、個人情報保護に関する知識を教授する。								
【到達目標】								
情報に関わる著作権、特許、知財管理、個人情報保護に関する基礎的な知識を十分に取得できていることを到達目標とする。								
【授業計画と内容】								
以下の内容の講述を行うとともに、適宜、机上演習やグループ討論を行う。一部の回では関連分野のゲストスピーカーを招聘して協奏的講義・討論を行う。授業はzoomを用いたライブ配信による遠隔授業の形で実施し、一部の回ではグループワーク、小テストなどのために部分的に受講者側のカメラが必須となる。								
[1] 講義概要紹介 (1回) (田島) [2] 特許権 (4回) (谷川、田島) [3] 知財の生成・管理と情報技術 (特許情報検索, 特許工学) (1回) (谷川、田島) [4] 特許権・商標権とライセンス交渉 (1回) (谷川、田島) [5] デジタルコンテンツ著作権 (4回) (宮脇、田島) [6] 人工知能 (AI) と知的財産 (1回) (谷川、宮脇、田島) [7] 個人情報保護 (1回) (宮脇、田島) [8] 情報技術と商標 (商標登録の仕組, キーワード広告と商標権, 商標戦略等) (1回) (谷川、田島) [9] フィードバック (1回) (田島)								
【履修要件】								
特になし								
【成績評価の方法・観点】								
情報に関わる著作権・特許、知財管理、個人情報保護に関する知識を十分に取得できることを到達目標とする。 講義中に複数回実施する小テスト (合計で60%) および期末試験 (40%) で成績評価を行う。ただし、期末試験を実施しない場合には、講義中に複数回実施する小テスト (合計で60%) および期末レポート (40%) で成績評価を行う。								
【教科書】								
教材は講義ノート(Powerpoint)および関連文献のプリント (適宜配布) を用いる。								
【参考書等】								
(参考書) 渡辺保史 『デジタルコンテンツの知的所有権』 ((株) オライリー発行, (株) オーム社発売)								
----- 情報と知財入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----								

情報と知財入門(2)

ISBN:978-4900900530

荒竹純一 『インターネット著作権-知っておきたいITビジネスの法知識』 (ソフトバンクパブリッシング(株)) (月刊BUSINESS STANDARD創刊記念冊子2001年6月25日発行<http://www.netlaw.co.jp/booklet/index.html>からダウンロード可能)

文部科学省 『改正著作権法(著作権法の一部を改正する法律案)』 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/171/1251917.htm)

鮫島正洋 『新・特許戦略ハンドブック』 (商事法務) ISBN:978-4785713690

谷川英和, 河本欣士 『特許工学入門』 (中央経済社) ISBN: 978-4502909603

デボラ・G. ジョンソン (著), Deborah G. Johnson (原著), 水谷雅彦 (翻訳), 江口聡 (翻訳) 『コンピュータ倫理学』 (オーム社) ISBN:978-4274079542

水谷雅彦 『情報の倫理学(現代社会の倫理を考える(15))』 (丸善) ISBN:978-4621072707

水谷雅彦 『岩波 応用倫理学講義〈3〉情報』 (岩波書店) ISBN:978-4000267168

『個人情報保護に関する法律』 (首相官邸ホームページ) (<http://www.kantei.go.jp/jp/it/privacy/houseika/hourituan/>)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に配布する授業資料を用いて予習・復習を行うこと。

[その他(オフィスアワー等)]

オフィスアワーはメールによる事前予約のこと。メールアドレスは以下の通り(「@」を「@」に置き換えること) :

田島 : tajima@i.kyoto-u.ac.jp

谷川 : htanigawa@ird-pat.com

宮脇 : mmt23360@law.ritsumei.ac.jp

[実務経験のある教員による授業]

①分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容

③実務経験を活かした実践的な授業の内容

科目ナンバリング		U-LAS30 10009 LJ11 U-LAS30 10009 LJ12 U-LAS30 10009 LJ10					
授業科目名 <英訳>	情報基礎 [全学向] Basic Informatics (General)			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 田島 敬史 情報学研究科 特定准教授 杉山 一成 経営管理大学院 特定講師 増田 央		
群	情報学科目群	分野(分類)	(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2020・後期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
<p>情報とは何か、情報の処理や計算とはどのようなものかについて、情報の評価、情報の表現、情報の伝達、情報の検索などの様々な側面から学ぶ。また、現在のコンピュータ、情報ネットワーク、様々な情報システムなどがどのような仕組みで動いているのかについても取り上げる。</p>							
【到達目標】							
<p>情報とは何か、情報の処理や計算とはどのようなものかについて考えることにより、情報という観点からの問題の捉え方や思考方法を身につけることを目指す。また、現在のコンピュータ、情報システム、情報ネットワークはどのような仕組みで動いているのか、代表的な情報処理手法にはどのようなものがあるかなどについて学ぶことにより、現代情報化社会における知的活動および一般生活において必要となる情報利活用能力の基礎となる知識を身につける。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>以下のような内容について授業を行う予定である。授業は、zoomを用いたライブ配信による遠隔授業の形で実施する。</p>							
<p>01 情報とは何か：主観確率、ベイズの定理（田島） 02 情報の評価：情報量（杉山） 03 コンピュータのための情報の表現：アナログとデジタル、誤り訂正符号、情報圧縮、量子コンピューティング（杉山） 04 社会での情報の利用：データ駆動型社会、データ・AI活用領域の広がり、社会で活用されているデータ（増田） 05 人間のための情報の表現：情報の信憑性、ユーザインタフェースのデザイン（田島） 06 情報のデータ化：データモデル、データ構造、関係、グラフ（田島） 07 計算の手順とその評価：アルゴリズムと計算量（田島） 08 計算とその結果の表現：プログラミング、最適化、データ可視化（増田） 09 複数主体による処理：分散処理、インターネットの仕組み（杉山） 10 計算と知能：人工知能、機械学習、データサイエンス（杉山） 11 計算と自然科学：自然科学におけるコンピュータ利用、データ・AI利活用事例/最新動向（推薦システムなど）（杉山） 12 計算と社会科学：人文社会科学におけるコンピュータ利用、データ・AI利活用事例/最新動向（FinTechなど）（増田） 13 情報と社会：情報通信技術の発展と情報化社会で必要とされる権利や倫理（杉山） 14 情報に基づく意思決定：ゲーム理論の基礎（田島） 15 フィードバック（田島・杉山・増田）</p>							
情報基礎 [全学向] (2)へ続く ↓ ↓ ↓							

情報基礎 [全学向] (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

通常の授業中に行う小テスト（一部の回については授業後のレポート課題）の結果に基づいて評価を行う。本講義で学ぶ「情報とその処理とはどのようなものか」「コンピュータや通信ネットワークはどのような仕組みで動いているか」などの知識について、各所の要点、および、それらの間の関係の全体像を、自分の言葉で説明でき、かつ、他の分野に応用できる程度に体得できているかを評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業資料や演習問題の解説資料などを用いて、毎授業ごとに復習を行うこと。また、事前に授業資料が配布されるなどにより、授業内容が事前にわかっている回については、取り上げられる概念などについて各自で調べて予習を行うこと。

【その他（オフィスアワー等）】

オフィスアワーはメールによる事前予約のこと。メールアドレスは以下の通り（「@」を「@」に置き換えること）：

田島：tajima@i.kyoto-u.ac.jp

杉山：kaz.sugiyama@i.kyoto-u.ac.jp

増田：masuda.hisashi.4c@kyoto-u.ac.jp

科目ナンバリング		U-LAS30 20025 LJ13					
授業科目名 <英訳>	情報企業論 Information and Enterprise			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 特定教授 前川 佳一 経営管理大学院 教授 松井 啓之 経営管理大学院 特定講師 増田 央 経営管理大学院 教授 原 良憲		
群	情報学科目群	分野(分類) (各論)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2020・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
<p>情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。また、情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響について、思考を深める。</p> <p>特に将来グローバルな仕事への従事希望者、ハイテク産業の行政、投資・評価、コンサルティングの希望者、起業志向者、大企業やスタートアップのキーマネジメント志向者、経営管理などに興味をもつ学生にとっては、ITインフラ、サービス関連の全体概要と最新動向に触れる機会を提供する。受講者が目的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。当該領域で活躍中の第一線専門家による講義も予定している。</p>							
[到達目標]							
<p>情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画する能力の獲得を目指す。また、価値の創出（クリエイティブ・デザイン）と価値の良さがわかる（サービス・リテラシー）人材の教育を行う上での基礎知識を習得する。</p>							
[授業計画と内容]							
<講義スケジュール例> (2019年度実績)							
<ol style="list-style-type: none"> 1 前川・松井・平本・増田 イン트로ダクション 2 松井 企業活動と情報システム/デジタル化とコンピュータ 3 平本 エスノグラフィ(参与観察) 4 平本 エスノグラフィ(分析) 5 前川 事例紹介「顧客満足度指数」 6 平本 サービスデザイン 7 松井 企業活動と情報システム/データベースとネットワーク 8 松井 企業活動と情報システム/クラウド・IoT・AI 9 前川 マーケティング(理論とケース) 10 前川 事例紹介「脳科学をビジネスに」 11 前川 ナレッジ・マネジメント 12 増田 情報社会のマーケティングリサーチ/デジタル化する企業 13 増田 情報社会のマーケティングリサーチ/顧客の変化 14 前川・松井・平本・増田 レポート発表・総括 15 前川・松井・平本・増田 フィードバック 							
----- 情報企業論(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----							

情報企業論(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

情報活用社会に対する社会背景、現状分析、課題の認識、解決アプローチ等の習得を目的とし、その習得程度を評価する。評価の方法としては、授業への積極的参加（20%）、レポート課題(4回、合計で80%)とする。

【教科書】

教科書は指定しない。

授業で用いるものは、適宜配布する。

【参考書等】

(参考書)

小林潔司、原 良憲、山内 裕『日本型クリエイティブ・サービスの時代 「おもてなし」 への科学的接近』（日本評論社）ISBN:978-4-535-55799-4

下記記載の参考書は、主として第1部、第3部の概要を知るための参考資料である。第2部、第4部に関しては、授業中に適宜指示を行う。 [1] David A. Kaplan, The Silicon Boys: And Their Valley of Dreams（邦訳：デイビッド・A・カプラン, シリコンバレー・スピリッツ, ソフトバンクパブリッシング）, 2000 [2] ジョー・ティッド他, イノベーションの経営学, N T T出版, 2004 Lewis

Branscomb and Philip Auerswald, Between Invention and Innovation, NIST GCR 02-841, 2002 [3] Geoffrey A. Moore, Crossing the Chasm（邦訳：ジェフリー・ムーア, キャズム, 翔泳社, 2002) [4] Clayton Christensen, The Innovator's Dilemma（邦訳：クレイトン・クリステンセン, 翔泳社, 2000) [5]

Clayton Christensen, Seeing What's Next(邦訳：クレイトン・クリステンセン, ランダムハウス講談社, 2005) [6] ダンカン・ワッツ, スモールワールド・ネットワーク, 阪急コミュニケーションズ, 2004

[7] アルバート・バラバシ, 新ネットワーク思考, 日本放送出版協会, 2002 公文俊平, 情報社会学序説, N T T出版, 2004 [8] クレイトン・クリステンセン, 明日は誰のものか, ランダムハウス講談社,

2005 クリス・アンダーソン, ロングテール, 早川書房, 2006 [9] ヘンリー・チェスブロウ, 「Open Innovation」, 産業能率大学出版部, 2004 [10] スティーブ・Y・西浦, 「リテンションストラテジー」, かんき出版, 2001 [11] Timmons, et al., “New Venture Creation -

Entrepreneurship for the 21st Century - ”, McGraw-Hill Irwin, 2006 [12] John L. Nesheim, “High Tech Start Up” , The Free Press, 2000

【授業外学修（予習・復習）等】

前回受講のハンドアウトの復習。参考書籍の事前学習。

【その他（オフィスアワー等）】

受講者が目的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。

開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールによるアポイントを経ることとする